

ニュース・年間行事

■2011年

○9月27日 高冷却型機械式微粉碎機 グラシス (GLACIS) を発表

- ・冷却のための構造を徹底的に追求し、弱熱性原料の超微粉碎を可能にした高冷却型機械式微粉碎機 グラシスを開発した。これによって、樹脂を原料とするトナーや高温で味や香りが変化する食品など、熱に弱い原料をミクロン単位にまで粉碎することが可能になった。この新開発のグラシスは、10月19日～21日にインテックス大阪で開催された「粉体工業展 大阪2011」への出展を機に販売を開始した。



○10月5日 世界初の「プッシュ-プッシュ式フィルタ交換構造」を採用したバグインバグアウト集塵機 BBPの開発を発表

- ・従来の常識を覆したフィルター交換に「プッシュ-プッシュ方式」を採用した『BAG IN-BAG OUT 式 パルスジェットコレクタ』を開発した。本機は、クリーン側から交換フィルタを押し込み、反対側からダークなフィルタを押し出す方式であるため、作業員への高活性物質暴露を大幅に軽減したより安全性の高い集塵機である。本新製品も、上記「粉体工業展 大阪2011」への出展を機に販売を開始した。

○10月14日 関東地区事業所統合と新東京事業所建設を発表

- ・当社の関東地区の事業所は、東京支店（東京都板橋区）、柏事業所、つくば事業所の3箇所に分散しており、業務運営および情報伝達の面で非効率であった。この度の関東地区事業所統合計画は、現在の柏事業所の敷地を拡張して、受託加工事業部門を除く上記事業部門を統合しようとするものである。

○10月19日～21日 粉体工業展 大阪2011への展示

- ・“粉の先端技術で世界をリードするホソカワミクロン”をメインテーマに、ナノパーティクルテクノロジーを含む新製品の数々を実機またはパネルにて展示した。主な出展内容としては、本展示会が初公開となる「高冷却型機械式粉碎機 グラシス (GC-600)」、 「バグインバグアウト集塵機 BBP」をはじめとした11機種の新製品と、マテリアル事業、受託加工事業、受託分析・評価事業を紹介した。製品技術説明会では、「低融点、弱熱性物質の粉碎に最適な最新型粉碎機の紹介」、「新型パウダテスタPT-Xの紹介」の説明を行った。



○11月29日 日清エンジニアリング株式会社および当社との業務提携契約を締結

- ・当社と株式会社日清製粉グループ本社の100%子会社である日清エンジニアリング株式会社は、平成22年11月29日付けにて、「業務提携の協議に関する覚書」を締結し、両社の事業における協力関係の構築について協議を行ってきたが、平成23年11月29日、両社間で本業務提携契約を締結した。

○12月5日 「第18回ホソカワ粉体工学シンポジウム」の開催

- ・粉体技術談話会の主催で、第18回ホソカワ粉体工学シンポジウムが枚方本社12階にて開催された。「電池の研究開発と高性能化の鍵を握る粉体技術」をテーマにした4件の講演があり、87人の参加があった。



■2012年

- 2月29日～3月2日 国際二次電池展2012への展示
 - ・電池業界で高い評価を得ているホソカワグループの最新の粉体設備機器と測定機として、ナノ粒子複合化装置 (NOB-450型)、セラミック製微粉碎機 (ACMパルベライザACM-30HC)、乾式媒体攪拌ミル (プルビスPV-270)、オンライン粒径分布測定装置 (参考出品)、粉体力学特性評価装置 (パウダテストPT-X)、界面特性・濡れ性測定装置 (ペネトアナライザPNT-N)、小規模研究開発用卓上ラボ機 (ピコライン picoline)、受託加工の案内、受託測定のご案内を展示。
- 3月26日 ホソカワミクロンパウダースGmbH (ケルン, ドイツ) の受託工場改築と設備増強の発表
 - ・ドイツにおいて受託加工事業を展開している当社の海外子会社ホソカワミクロンパウダースGmbH (資本金: 約2,505千ユーロ) (以下, HMP社) が, 2011年9月に完成した新倉庫建設工事に続き, 総額5,705千ユーロ (約6億3千万円) を掛けて, 受託加工工場改築および大型粉碎機等の加工設備導入を実施することにより, 欧州における受託加工事業の更なる増強を図ることになった。



- 3月30日 化粧品OEM事業推進用 新製品“プルガンス (PLGAns) (2種) の開発を発表
 - ・当社の製薬・美容科学研究センター (センター長: 辻本広行博士) は, 同センターで行っている化粧品OEM事業の拡大を図る為, 法人向けOEM販促用ツールとして, 新製品“プルガンス オールインワンジェル (ジェル状美容液)”および“プルガンス プレストパウダー (粉状美容液)”を開発し, 4月初旬から販促活動を開始することになった。
- 4月24日 メモリアルシンポジウムの開催
 - ・故細川益男会長の三周年忌, ならびにNanoparticle Technology Handbook 第2版の出版を記念して, ホソカワ粉体工学振興財団主催の“The

International Symposium on Nanoparticle Technology in memory of late Mr.Masuo Hosokawa” が帝国ホテル大阪にて開催され, 119名の参加があった。

- 5月22日～25日 「Korea Chem 2012」への展示
 - ・大韓民国ソウルで開催された「Korea Chem 2012」に出展し, 以下の装置を展示・実演した。PT-X, PNT-N, ナノ粒子複合化装置 (NOB-MINI), 粒子径測定 (篩) (エアージェットシープ e200LS), 乾式超微粉碎機 (スパイラルジェットミルAS), 連続混合・加湿・湿式造粒機 (フレキシソミックスFX-100), 医薬用圧縮造粒機+解砕機 (ファーマパクタL200P+解砕機FC), コンテナメント (アイソレータ, ダウンフローブース)。



- 5月28日～29日 「Interphex Asia 2012」への展示
 - ・シンガポールで開催された「Interphex Asia 2012」に当社代理店マラヤン・ダッチングとホソカワミクロングループの医薬関連機器として装置を出展した。PT-X, BBP (パネル展示のみ), その他 (e200LSなど)。
- 5月31日 ロシア販売子会社の設立
 - ・ホソカワミクロングループの世界戦略に基づき, ロシア市場に対して更なる拡販を進めるため, 同国第2の都市St.Petersburg (サンクト・ペテルブルグ) に販売子会社ホソカワミクロン サンクトペテルブルグ社 (HOSOKAWA MICRON Sankt Petersburg有限会社) を設立し, 粉体機器・システム, ならびにプラスチック薄膜製造装置, 製菓システムおよびこれらのアフターサービスを含めた全グループ製品の販売活動を開始した。
- 6月20日～22日 CIBF2012, 第10回中国国際電池技術展示会への展示
 - ・中国深センで開催された「第10回 中国国際電池技術展示会 (CIBF2012)」に出展し以下の装置を展示した。PNT-N, PT-X (パネル展示), リチ

ウムイオン二次電池関連技術（パネル展示）。

- 6月21日～22日 「AlpineExpo 2012」の開催
 - ・ホソカワ／アルピネ（ドイツ、アウグスブルグ）において、オープンハウスセミナー AlpineExpo2012を開催した。ホソカワミクロングループと協力会社より、2日間にわたりプレゼンテーション、デモンストレーション、テストセンターの見学などが行われた。
- 6月26日～28日 CPhI, ICSE & BioPh China 2012 への展示
 - ・中国上海で開催される「CPhI (Pharma Ingredients) China」に出展し、以下の展示・紹介を行った。PT-X, 流動層式ジェットミル（100AFG医薬仕様）、医薬関連粉体技術の紹介（パネル展示）。
- 6月27日～29日 第1回国際化粧品展“COSME TOKYO”への出展
 - ・東京ビッグサイトで開催された「第1回国際化粧品展“COSME TOKYO”」に出展し、PLGAns オールインワンジェル、PLGAns プレストパウダー、ホソカワのOEM化粧品を展示した。
- 9月5日 KONA Symposium 2012 の開催
 - ・公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団主催の KONA Symposium 2012が倉敷で開催されたICCCI 2012（The Fourth International Conference on The Characterization and Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials, September 2-5, 2012）のサテライトシンポジウムとして開催され、10ヶ国から40名の出席があった。当社はこのシンポジウムを後援しパネル展示を行った。
- 9月27日 第46回粉体工学に関する講演討論会の開催
 - ・公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団の主催、ホソカワミクロンの後援で、第46回粉体工学に関する講演討論会がホテルラフォーレ東京にて開催された。今回のテーマは「ナノパーティクルテクノロジーの応用最前線」で、141名の参加があった。



編集後記

本年も世界的に厳しい経済状況が続き、日本では、他の諸先進諸国同様に人口が減少し、さらに企業の海外流出が進んで産業の空洞化が懸念される状況の中、特にこの年末にかけて政治的にも混沌とした状態です。一方、今年の明るいニュースとして京都大学の山中伸弥教授がiPS細胞の発見でノーベル医学生理学賞を受賞され、将来の再生医療の大きな可能性を示されて世界中に大きなインパクトを与えられました。また8月のロンドンオリンピックでは日本人の活躍が目立ち、日本ではこれまで最多の38個のメダルがもたらされました。その他、様々な分野で日本人の活躍は目覚ましいものがあり、日本人としての誇りを感じるとともに、人材の重要性を改めて知る思いが致します。

一方、10月3日には、日本で初めて秋田県鮎川油ガス田で、オイルシェールの試験発掘に成功したニュースが伝えられました。また、「燃える水」と呼ばれるメタンハイドレートも日本近海には豊富に埋蔵されているといわれ、今後のエネルギー資源として注目されています。その他にも日本近海にはレアアースを含めて様々な資源が眠っているようです。また10月末には、1985年から金の採掘が行われている鹿児島県菱刈鉱山で、累計発掘量が200トン以上となり、佐渡の金山での総発掘推算量を超え、まだ順調に採掘が進んでいるとのことです。このようにして、全体としては地下資源に乏しい日本ですが、まだまだ様々な可能性が秘められている感じがします。メタンハイドレートの工業化を始め、これらの資源開発やその応用にも粉粒体技術は無くしてはならない技術となっています。

本号は、2011年12月にホソカワミクロン本社で開催された第18回ホソカワ粉体工学シンポジウム、ならびに2012年9月に東京で開催された第46回粉体工学に関する講演討論会の講演内容を特集として編集されています。本年号では、より良い技術専門誌の出版を目指して社内編集体制の見直し、強化を図り、出版準備を進めました。本誌につきまして、ご意見、ご要望等がございましたら、何なりと事務局までご連絡頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。

“粉砕” No.56 (2013)

2012年12月15日 発行
出版責任者 横山 豊和
発行所 ホソカワミクロン株式会社
大阪府枚方市招提田近1丁目9
印刷所 (株)NPCコーポレーション
大阪市北区天満1丁目9-19
